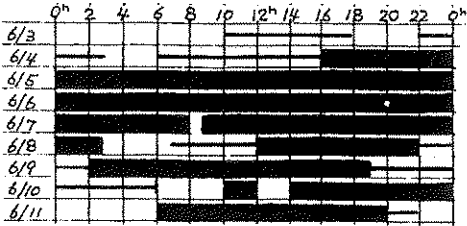


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No. 1778 長期継続前兆 現況報告 若干修正

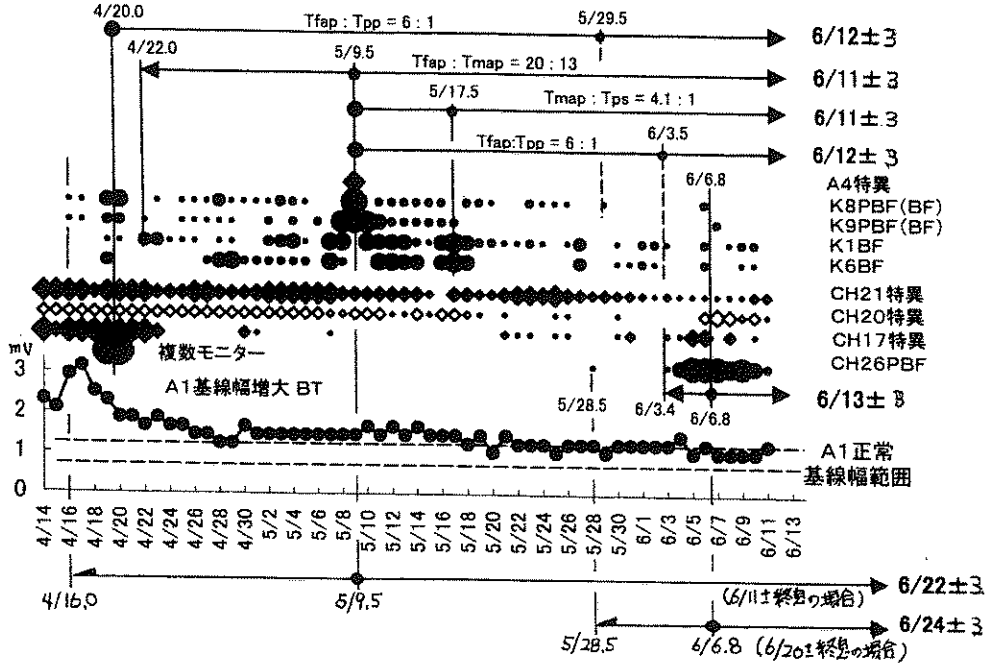


上図:CH26-PBF 出現状況(6/11, 22時迄)
名横軸が一日を表す。左端右端00時
中心12時。 黒太線=明確なPBF
黒細線=微弱なPBF

前情報では、6/11or12にNo1778前兆の対応地震が発生する可能性も十分考えられることを報告致しました。6/11 or 6/12に対応地震が発生する場合には、6/11朝迄に前兆終息が観測される筈でした。しかし、6/11夜現在、CH21特異が継続出現中です。

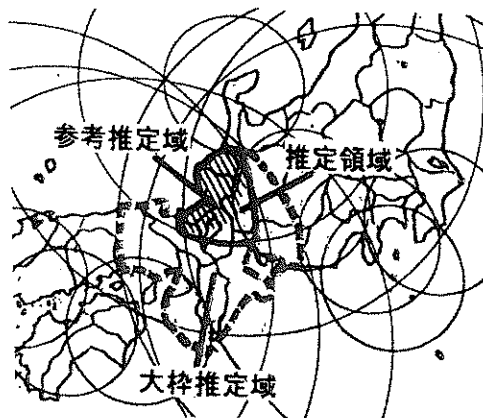
このことから、6/11or12の地震発生の可能性は否定できます。安全。

上図CH26-PBF出現状況図の6/6 20時の白丸印は極大認識。過去例では、極大時に PBF周期が伸びています。今回は 6/6夜に最も長い周期が認められるため、極大を 6/6.8と修正。他、上前兆出現状況図のとおり若干出現開始と終息の値を修正。その結果、6/11 ±3 と6/12 ±3 が推定されることになりました。CH26-PBFも微弱PBF出現開始 6/3.4を初現とし、6/6.8極大で計算しますと、6/13 ±3 が推定されることになります。これらを踏まえ、過去例での最大誤差 ±3日を考慮しますと、6月14日迄は可能性があると修正。現在6/11夜22時。まだCH21に特異が認められることから、6/12 並びに 6/13 発生の可能性は否定されます。6/14に発生とはなる場合は、明日12日中に前兆終息の可能性となります。火山帯近傍地震前兆も過去例の最大誤差 ±3日を考慮します



と、6月11日 ±3で6月14日迄は可能性が考えられます。以上から、No1778前兆と火山帯近傍地殻地震前兆が同一の可能性とする認識からは、6月14日に発生する可能性は否定できないこととなります。(6/15は過去例誤差を1日越える為不明) さて、明日の6月12日夜までに終息しなかった場合については、上前兆出現状況図の下部に記した様な6月23日 ±3の可能性も考えられます。K1, K6-BFが6/10迄で終息していることから5/9.5 極大に対する終息の可能性も有。この場合はCH21特異等は6/20 ±迄継続の可能性有。但し仮にNo1778が6/23 ±となる場合には、火山帯近傍地殻地震前兆は群発経験則使用の場合では活動時期が調和しなくなります。No1778と同一活動で同一活動時期と云う推定は不成立。火山帯近傍地殻地震前兆は別領域の活動か、同一領域で活動時期が異なるか、又は群発経験則使用が誤りかのいずれかとなります。6/14に群発的活動がなければ、No1778と同一の可能性濃厚で、両者から6月中か7月中か同じ時期を示す関係を再検討必要。6/12夜迄に前兆が終息するか、継続中かを観測して続報予定です。

- ◆推定領域: 右図
 - ・大枠推定領域=点線領域内
 - ・推定領域 =太線領域内
 - ・参考推定領域=斜線領域
- ◆推定規模: 最大M7.8 ± 0.5 (他中規模地震多数)
 - ※火山帯近傍地殻地震前兆が同一の場合は、群発地震経験則が成立するため、M6.8 ± 0.5地震等を主とする中規模地震多発活動の可能性も示唆される
- ◆推定時期: ①6/12に前兆終息の場合=6月14日
 - ②6/12に前兆終息しなかった場合は、その後の実際の終息を観測して推定予定
 - ※少なくとも6/12, 6/13 発生の可能性は考えられません
- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前9時 ± 1 (又は午後6時 ± 3)



※前兆出現影響局に誤認がある場合は、東北中南部の可能性も若干ありますが、最も考え易いのは上図領域。全く異なる領域の場合は陳謝致します。